

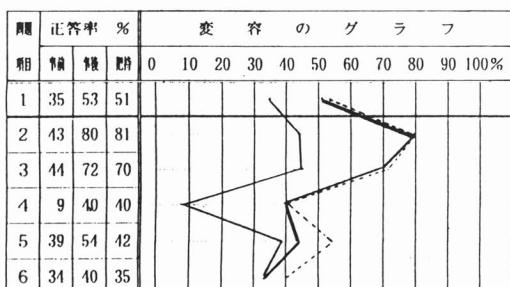
③ 「個人成績カルテ」の導入から
各段階において自分の理解度を知り、
弱点解消のため「何を、いかになすべき
か」を生徒各自が考え、自ら課題を解決
するのに有効であった。

④ 「事前・事後・把持テスト」から
把持テスト終了後、生徒を3グループ
に分け反省をまとめた《資料4》。下位
の生徒も基礎が定着し、楽しく学習して
いたようである。また、《資料5》の変
容のグラフから問題項目2、3について
は、高い有効度を示している。しかし、
項目5、6の応用力となると有効度は低
い。特に、読解は生徒達の感想にもある
ように「単語力」の不足が、伸張度また
有効度の低い原因の一つであろう。しか
しながら、このような指導を展開してい
けば、本校生の弱点である英文読解力の
向上にもつながると考えられる。

《資料4》 把持テスト終了後の感想

下位	<p>3回とも「that what but as」が一箇しかあたらないので そこを勉強しよう</p> <p>基礎がわからず、複数か難しくてよく楽しくない。 手を出していただいた。だんだん慣れて、少しでもできたりする。 まだ一歩だ。</p>
中位	<p>多くの時間で時間が理解したつもり。しかし、まだ理解していません。 まだ理解していないので大体が理解できました。 基礎的な問題が多かった。ある程度理解してたので、自分の力で答えた。 基礎の問題がいるのか、結構でないとまだ理解できるが、まだややわからない。</p>
上位	<p>最初のテストで苦戦したのが点数が低くて悲しいが、だから前回 より点数が高くて嬉しい。特にこの問題は、どうやら単語の読み方や意味が問題 でいていたのでそれを覚えて、もう一度、もう一度と何度も読み直しました。 問題詞については、いままで、筆者はどちらかで書いていたのが、今は、 自分で書いています。今後も、この様な、問題を繰り返していくつもりです。 最後は、今まで、二つある、問題を繰り返していくつもりです。 (ねるべく) やはり日本英語(ニ)先生、頑張ります。</p>

《資料5》 —— 事前 ----- 事後 —— 把持テスト



問題項目、1総合、2関係詞の種類と用法、3関係詞の働き
4that, what, but, asの用法、5短文和訳と慣用表現
6関係を含む長文読解

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

文法力の向上には「教材の精選と段階化」「個に応じた指導」は有効である。今回の研究で「関係詞の理解」は深まり弱点解消になったと判断できる。しかし、読解力が向上したという実証は得られなかった。その理由として、次のような事が考えられる。

◆英文読解力は、語彙力の増強や他要素が関連し、一朝一夕で向上するものではない。

◆事前・事後・把持テストの英文の難易度にバラツキがあり、正確で客観的なデータが得られず十分な検証ができなかった。

2 今後の課題

(1) 効率的な教材の精選と段階化及びその実践のために、TT方式を導入する必要がある。

(2) 習熟度別授業を取り入れ、学力差に応じた指導の充実を図る。

(3) 授業がわからないことは、何よりも苦痛である。本校の成績上位者と言えども、基礎・基本に欠け「円錐型」の学力ではなく不安定でもろい剥落学力である。学ぶ意欲と基礎を定着させる授業を展開することである。

※参考文献

- ・高校新基礎英語 桐原書店
- ・英語教育 大修館 1993年別冊
- ・話題源英語（上） 東京法令出版
- ・基礎英文法問題精講 旺文社
- ・平成5年度教研法講座 研究報告書
福島県教育センター